

アーカスプロジェクト 2023 いばらき

アーティスト・イン・レジデンスプログラム

アーティスト決定



ローラ・クーパー



写真：小牧寿里

進藤 冬華

この度、2023年度の公募によるアーティスト・イン・レジデンス（※）プログラムにおいて招聘する2名のアーティストが決定しましたので、お知らせします。海外からはイギリスを拠点に活動しているローラ・クーパーを、そして国内からは北海道を拠点に活動している進藤冬華を迎えます。2人のアーティストは、9月7日から12月5日までの90日間、守谷市のアーカススタジオを拠点に滞在制作に取り組みます。

今年度の応募件数は昨年より104件増加し、海外から330件（65か国・地域）の応募と、国内から14件の応募がありました。審査員に後藤桜子氏（水戸芸術館現代美術センター 学芸員）と崔敬華氏（東京都現代美術館 学芸員）を迎えて審査会を実施し、長時間にわたる議論を経て2名を選定しました。9月16日にアーティストを囲んで歓迎会を実施します。また、滞在の終盤には活動成果を発表するオープンスタジオ（11月23日～26日）を開催する予定です。ぜひ事前の告知、取材にご協力賜りますよう宜しくお願いいたします。

プログラム期間 2023年9月7日(木)～12月5日(火) 計90日間

応募件数 外国籍者：330件（65か国・地域） ※2022年度から102件増加
日本国籍者：14件 ※2022年度から2件増加

（※）アーティスト・イン・レジデンスとは

アーティスト・イン・レジデンス（AIR）とは、アーティストをある場所に一定期間招へいし、創作活動に集中する時間と場所を提供する仕組みです。アーカスプロジェクトは今年で30年目を迎える、現代アートの分野では国内で最も歴史のあるAIR運営団体で、これまでに世界36か国・地域から112組のアーティストを招へいしてきました。国境を越えて移動し、異なる文化や環境に身を置くことは、アーティストに新たなアイデアをもたらし、多角的な視点から作品と向き合う機会を作ります。そして、アーティストたちと地域住民との交流は、それぞれの日々の暮らしに彩りや気づきを与えます。そういった相互作用も、AIRの醍醐味です。

ローラ・クーパー Laura Cooper

1983年、英国シュルーズベリー生まれ、バーミンガム在住。アーティストで映像作家であるクーパーは、人間が、人間だけではなく生き物を完全に知り得ることが不可能であるということに関心を寄せ、人間と動物の関係を探求したり人間中心ではない生活を試みたりして制作を行っている。映像は詩的で、人が参加することで成立するドキュメンタリーであることが多い。特定の風景や動物、コミュニティとやりとりを繰り返しながら制作するため、これまでに農家や狩猟者、鷹匠、不動産開発者、療法士、科学者などとのコラボレーションをしてきた。アーカスプロジェクトでは、イノシシをモチーフに英国と日本の動物をめぐる文化の違いに着目し、狩猟の現場を調査しながら作品制作を行う。



アーカスプロジェクトでのプラン

学生時代に日本に短期間滞在した経験のあるローラ・クーパーは、英国と日本における人間とイノシシの対照的な関係に着目し、16mmフィルムとパフォーマンスで構成される作品《Wilder》の制作を進める。日本では、イノシシ猟の伝統は失われるとともにその数が増え、農村や都市に侵入しては人間の生活に害を及ぼしている。その一方で、英国において、野生のイノシシは17世紀に入って一時絶滅したが、最近になって観光の目玉として、特定の景観のために「再野生化」させられている。人間の生活文化の変遷や自然環境の変化、さらに人間の経済活動のための再資源化など、二国間での人間とイノシシの関係を比較しながらその行く末を探る。



(上) *The Sun's Tongue* 16mm映像フィルム スティル, 2023

(下) *The Sun's Tongue* 16mm映像フィルム スティル

進藤 冬華 Shindo Fuyuka

1975年、北海道生まれ、江別市在住。生まれ育った北海道の歴史や文化を紐解きながら、日本とそれに留まらぬ国々の近代化を進めた目には見えない力を照らし出すような作品を制作している。時に、近代社会の到来とともに制度として整備された美術館やその展示方式を使い、北海道の生活文化に言及するオブジェを展示している。その根底には、アーカイブや遺物、伝承などの記録をとおして「残すこと」への社会的な欲望とともにそれへの不信という両義性がある。一方で、近代社会の中央集権的なあり方をよそに、自治の思想に基づくアナキズムや地域社会の状況へも関心を寄せ、観察や調査を経て行うパフォーマンスやツアーを手がけている。アーカスプロジェクトでの滞在制作では、移民や防災をキーワードに調査を進め、制作を行う。



写真：露口啓二 写真提供：モエレ沼公園



写真：小牧寿里

- (上) 《移住の子》インスタレーション, 2019
(下) 《30,000mのゲロ、360mの唾》プロジェクト, 2021

アーカスプロジェクトでのプラン

北海道へと移り住んだ家族のもとで育った進藤自身の経験と思考を、レジデンスという経験を通して相対化することを試みる。北海道への入植は、日本の近代化と切り離して考えることができない。そうした政治的な要因によってある土地へと赴かされそこで生活を新たにはじめることは、今もなお世界的な規模かつ違った形でさまざまな土地や地域に影を落としている。進藤は、守谷をはじめとした茨城県南の町の調査や、移り住んできた人々との会話から近代を支えている大きな力のありかを探る。

アーティスト歓迎会 Welcome Party

お茶を飲みながら、アーティストと交流する会です。

※アーカスプロジェクトのサポーターや地域の方々に向けて実施します。

日時：2023年9月16日(土) 15:00-16:00

会場：アーカススタジオ

オープンスタジオ Open Studios

アーティストたちの活動の成果を発表します。

日時：2023年11月23日(木・祝) - 26日(日) 13:00-18:00 ※予定

会場：アーカススタジオ

入場：無料

◎ 詳細はウェブサイトでお知らせします。今後の新型コロナウイルスの感染状況によっては、イベントがオンラインへと変更になる可能性があります。

主催：アーカスプロジェクト実行委員会（茨城県、守谷市、公益財団法人茨城県国際交流協会）

後援：国際交流基金  JAPAN FOUNDATION
ブリティッシュ・カウンシル

認定：公益社団法人 企業メセナ協議会  企業メセナ協議会
助成認定活動

ご取材のお申し込みは下記へお願いいたします。

お問い合わせ先

アーカススタジオ（火-土 10:00 -18:00）

〒302 - 0101 茨城県守谷市板戸井 2418 もりや学びの里内 担当 | 恩田・藤本

TEL | 0297 - 46 - 2600 E-mail | arcus@arcus-project.com Web | www.arcus-project.com

【アーカスプロジェクト実行委員会】

茨城県政策企画部地域振興課 担当 | 鈴木・大西 TEL | 029-301-2786

アーカスプロジェクトの概要

1 経緯

東京藝術大学の取手市進出等を踏まえ、茨城県南地域において国際性と芸術をキーワードとして新たな施策の展開が求められたのを受け、平成3年度に、東京藝術大学長の平山郁夫氏（当時）を委員長とする検討委員会を設け、「国際芸術文化交流拠点整備構想」（＝アーカス構想）を策定した。

このアーカス構想の策定を受け、アーカスプロジェクトとして平成6年度にプレ事業を実施、平成7年度から実験的に事業を行い、平成12年度から本格的に展開している。滞在期間中に行う創作活動を支援する「アーティスト・イン・レジデンス」プログラムを核として、身近に芸術家と交流し、楽しみながら芸術創造活動を体験できる機会を提供することを通じ、県民が創造力を発揮できる環境を創出し、魅力ある地域づくりと本県のイメージアップを図る。

※「アーカス=ARCUS」とは、ラテン語で「門」を意味し、本県が芸術の門となることを、また、「ART×FOCUS（＝芸術の中心地）」となることを願って命名。

2 目的

海外から、現代芸術分野の若手アーティストを一定期間茨城県に招き、アーティストが滞在期間中に行う創作活動を支援する「アーティスト・イン・レジデンス」プログラムを核として、身近に芸術家と交流し、楽しみながら芸術創造活動を体験できる機会を提供することを通じ、県民が創造力を発揮できる環境を創出し、魅力ある地域づくりと本県のイメージアップを図る。

3 推進体制

主催：アーカスプロジェクト実行委員会（茨城県、守谷市、（公財）茨城県国際交流協会）、茨城県南芸術の門創造会議（茨城県、取手市、守谷市、東京藝大、アーカス、取手アートプロジェクト）

後援：招聘アーティスト出身国の大使館、国際交流基金

協賛：令和4年度（16社）R4.11.1現在

関彰商事(株)、鹿島埠頭(株)、(株)常陽銀行、(株)筑波銀行、守谷市金融団、開智望小学校・中等教育学校、守谷市商工会、(株)茨城ポートオーソリティ、(株)壁工房、中央労働金庫、茨城県信用保証協会、茨城みなみ農業協同組合、(株)千葉銀行守谷支店、(株)三井住友銀行、(株)北島産業電機、東部ガス(株)

認定：（公社）企業メセナ協議会

ネットワーク：Res Artis、AIR NETWORK Japan

《アーカスプロジェクト実行委員会》

会長	：茨城県知事
副会長	：茨城県政策企画部長、守谷市長
監事	：（公財）茨城県国際交流協会理事長

事務局：茨城県政策企画部地域振興課（事務局長：地域振興課長）

アーカススタジオ：ディレクター1名・コーディネーター2名
【守谷市生涯学習施設「もりや学びの里（旧小学校校舎）」内】

4 主要事業

○アーティスト・イン・レジデンスプログラム

- ・公募によるアーティスト招聘
- ・エキステンジレジデンスプログラム（韓国：セマ・ナンジレジデンスと連携）
- ・AIR Bridge（他AIR団体との連携・勉強会の実施など）
- ・アーカスリサーチ（自主指導型のレジデンスプログラム）

○地域プログラム

- ・日比野克彦氏や若手アーティストによるワークショップ開催
- ・アーカススタジオのスタッフ等による講座（アートカレッジ）開催